

第2学年 図画工作科学習指導案

題材名「うつして みると」

1 こんな子どもたちだから（児童の実態）

本学級では、1学期に「運動会の絵」や「好きなこと・楽しかったこと」で、経験してきたことや想像したことを、色鉛筆やパスを使って絵に表現することを学習してきた。また、「ぼうしをかぶって」や「まどをひらいて」では、自分の思いを広げ、ハサミやカッターで色画用紙を切り、製作する学習をしてきた。どの題材も表現することに興味・関心をもち、楽しんで活動する姿がみられ、表現することに対して意欲的な子どもが多い。

このような姿から、子ども一人一人が、自分の表したいことを自分なりの表し方で表現していくことができれば、さらに表現する喜びを味わうことができると考えた。また、刷り上がったとき、それまで自分がつくってきたものとは違った雰囲気のものが表れるので、その感動も味わえることができると考える。

2 こんな題材で（題材の価値）

本題材は、紙を切ったり貼り重ねたりして、簡単な版をつくり、自分の思いを紙版にして表すことをねらいとしている。

発想・構想段階では、自分の好きな生き物について詳しくイメージをふくらませることで、表したい思いを強くもって、表現に生かすことができる。

画用紙を用いて表現する本題材は、繰り返し版遊びをすることで、表現の幅を広げることができると考えられる。どのように貼り合わせると、どのような表現になるか確かめながら版をつくることで、自分の表したいことを効果的に表すための考えを深めることができる。

本題材はA表現（2）アと関連が深く、児童が自分の感じたことや想像したことから、表したいことを発想して表すことができる題材である。

3 こんな支援を（学習活動の工夫）

【発想・構想段階では】

題材と出会わせる場面では、教科書の表紙や挿絵、県展作品を見せることによって、自分の表したい好きな生き物を決める。図工ノートで自分の思いについて詳しくイメージをふくらませ、はっきりと文字で書くことで、表したい思いを強く持って表現していくことができるようにする。

【表現段階では】

紙版のパーツをつくり、その後、自分の思いを図工ノートで振り返る。また、版遊びの活動を通して、「動き」に目を向けさせ、版の置き方を試行錯誤しながら、工夫して表す。

【鑑賞段階では】

自分の思いを表現した生き物について3人グループ交流で友だちに話すことで、自分の表現を振り返る。友だちの作品を見ていいところを見つけ、伝えることを通して、表し方や材料の感じの違いや、面白さなどに気づくことができるようにする。

4 こんな子どもの姿に（題材の目標）

【造形への関心・意欲・態度】

紙を切ったり張り重ねたりして版をつくり、紙版に表すことを楽しもうとする。

【発想や構想の能力】

紙版の表し方を知り、どのように表すか考えることができる。

【創造的な技能】

紙版の表し方を用いて、版の作り方を工夫して表すことができる。

【鑑賞の能力】

できた作品の見せ合い、自分や友人の作品の面白さに気付くことができる。

5 指導計画（全8時間）

段階	配時	学習活動	教師の支援（手だて）	評価規準
発想・構想段階	1	1. 構想をねる。 ○ 紙版の作り方や刷り方を理解する。 ○ 教科書や絵本を見てどんなことを紙版に表すか考える。	○ 教科書P32・33を参考に見せながら、児童の前で紙を破いたり、切ったりして簡単な版を児童の前で作り、刷ってみせる。	(関) ○ 紙を切ったり張り重ねたりして版をつくり、紙版に表すことを楽しもうとしている。
	朝・帯タイム等に画用紙をちぎる練習を取り入れる			
表現段階	3	2. パーツをつくる。 ○ 基になる大まかな形をつくる。 ○ 必要な部分を作り、表したい形ができてくる楽しさを味わう。	○ 図工ノートより児童の考えを取り上げて紹介し、自分の思いを表したいこと構想していくきっかけとさせる。	(想) ○ 紙版の表し方を知り、どのように表すか考えている。
	1（本時）	3. 版遊びをし、版を完成させる。 ○ 自分の思いを版遊びをしながら表現する。 ○ 完成した版を3人グループで、お互いに工夫したところを伝える。	○ 課題意識を高めるために、動きのある作品と動きのない作品を提示して、ポイントである「自分の思い」「動き」を意識することの大切さに気付かせる。	(技) ○ 紙版の表し方を用いて、版の作り方を工夫して表している。
鑑賞段階	2	4. 版を刷る。 ○ 版を置く位置を考えて思ったような版画になるように刷る。 ○ 友だちと協力して版を刷る。	○ 刷りの活動がしやすいような用具の置き方を工夫し、活動場所を整えさせる。 ○ 刷るときの手の置き方、バレンの持ち方、インクの量、友だちと協力して行う方法などをしっかりと指導しておく。	
	1	5. 出来上がった作品をもとに鑑賞会をする。 ○ 小グループで鑑賞をする。 ○ 全体で鑑賞をする。	○ 作品を展示して、みんなで鑑賞できる場を設定する。	(鑑) ○ できた作品の見せ合い、自分や友だちの作品の面白さに気付いている。

(1) 本時の目標

- 動物や虫などとの楽しいことをイメージしながら、紙版を進んで製作することができる。
- 切ってきた紙パーツを動かしながら、組み合わせたり、配置を考えたりして、自分の思い表すことができる。

(2) 本時指導にあたって

導入で動きのある作品と動きのない作品を鑑賞し、気づいたことを比較して「動きをだしてより自分の思いをあらわしたい」という子どもの思いを引き出したい。そこで、どんな動きをつけるとよいか、友だちと鑑賞しながら切り抜いたパーツを操作して、自分の思いが表れた紙版になるようにする。

(3) 準備

教師：掲示用の版遊びのパーツ

児童：版遊び用のパーツ・のり・ハサミ・新聞紙

(4) 本時の展開

	学 習 活 動	教師の支援 (○) と評価規準 (*)
(7分)	1. 本時のめあてを知る。 じぶんの思いがよくあらわれるように、パーツをうごかして、かみはんをかんせいさせよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 版遊びの仕方を知る。 ・ 版を動かすことで、感じ方が変わることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題意識を高めるために、図工ノートで振り返り、ポイントである「自分の思い」「動き」を意識することの大切さに気付かせる。 ○ 本時のめあてにもたせるために、教師が演示し、紙版に「動き」を出すことで、自分の思いが表せることを感じさせる。
(23分)	2. 版遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いにあわせて、版の配置を変え、繰り返し試す。 ・ 自分の決めた位置でのりづけする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ より自分の思いを出させるために、机上で動かさせる。 * 図工ノートを振り返り、自分の思いを表すことができる。 ○ 構図をなかなかつけない子どもには、教師が「走っているときの足はどうなっている」「このときどんな気持ちだったの」などと具体的に尋ねて、一緒にパーツを動かしたり、動作化したりさせていく。 * 版の置き方を試行錯誤しながら、工夫して表す。
(10分)	3. 3人グループで交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを確かめる。 ・ 今日の活動で頑張ったところやいいところみつけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いが出るように完成させた紙版を3人グループで互いに紹介させる。
(5分)	4. 今日のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体で自分が頑張ったところを発表する。 ・ 友だちのいいところみつける。 はんあそびすると△△な はんになり、自分の思いがあらわれる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの良さを取り入れたり、感じることでできるように、自分の表現に伸びが見られた子どもを紹介したり、発表させたりする。 ○ 次時の表現への意欲を持たせるために、3人グループでこだわりを広げた子どもを全体で紹介する。

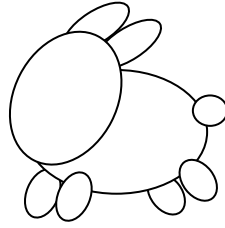
(5)板書計画

「うつして みると」

じぶんの思いがよくあらわれるように、パーツをうごかして、かみはんをかんせいさせよう。

今日の活動

- ① はんあそびをする。
- ② のりづけする。
- ③ いいところみつけ。



子どもの意見のまとめ

- ・自分の思いが
- ・動き
- ・表情
- ・

などが表現できる文言が出てくるのが目的。

(版遊びの表現の方法の例)